



東地中海地域ニュース

イスラエル：IDF 情報部分析課長ヨシ・バイダッツ准将による情勢ブリーフィング (9月15、16日付現地各紙)

1. イラン

イランの視点からの最も楽観的なシナリオは、彼らが核能力を保有するのは2010年である。しかしそのようなシナリオも可能性としては低い。しかし、イランが技術面で進歩を遂げている一方で、国際社会はイランに圧力をかけているようには見えない。

2. シリア

シリアは、西側に向けた平和の道に沿って前進している一方で、ヒズボラを強化するなど過激主義の枢軸との結びつきを強めている。シリアはこの二つの反対勢力とともに平和に生きており、どちらのチャンネルもシリアの脅威となっていない。シリアは両方の側で勝利できると感じている。

3. ヒズボラ

ヒズボラは、リタニ川の南北で武装している。また、ヒズボラは、レバノン領空を飛行するイスラエル空軍の航空機を迎撃するつもりだ。つい最近もヒズボラは、IDFのヘリコプターと誤認してレバノン軍のヘリコプターを撃墜した。ヒズボラは、一方で、テロ組織としてイスラエルを攻撃する衝動を有しながら、その一方で、イスラエルを恐れ行動の正当性を探し求めている。また、シリア、イランからのヒズボラへの武器の移転は、継続している。

4. パレスチナ

ガザにおけるハマスは、密輸を継続してカッサムロケットの増強を図り、イスラエルの銃後を脅威にさらしている。過去にいて、ガザ地区のカッサム工場はIDFから攻撃される危機があったが、(6月19日に始まった停戦以降) IDFが攻撃しない間に、密輸を行い精度と飛距離を向上させたロケットを製造している。

エジプトの努力にも関わらず、武器や物資の密輸は、ラファハを通じて継続している。(IDFによるガザ攻撃の可能性について)ハマスは、防御力の向上と地雷の敷設により、その防衛計画を深化させ、あり得るイスラエルによる侵攻作戦に脅威を与えている。(パレスチナの政治状況に関して)ハマスとファタハとの間で対話が行われていたが、それは低いレベルのものであった。西岸では、パレスチナの治安組織はハマスの慈善団体に対して活動しており、それは軍事的なものではない。